

愛知県庁舎（あいちけんちょうしゃ）

員 数：1 棟

附（ついたり）南自動車庫（みなみじどうしゃこ）

員 数：1 棟

北自動車庫（きたじどうしゃこ）

員 数：1 棟

所在地：愛知県名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 2 号

所有者：愛知県

1 指定の理由

愛知県庁舎は、昭和 13(1938)年竣工、庁舎の南北には自動車庫も併せて配置している。名古屋市庁舎とともに日本趣味を基調とした大規模庁舎建築が並立する都市景観を創り出している。その設計は、平面や空間の計画においては、過度の記念性を排した合理主義に基づいてまとめながら、外観意匠においては、西洋的な様式と城郭天守の意匠を融合させて地域色を現すことにより「日本趣味」を顕現したといえる。昭和前期における日本の建築思潮で課題となっていた「日本趣味」の表現を達成しており、特にすぐれた意匠と歴史価値を持っている。

（指定基準 意匠的に優秀なもの及び歴史的価値の高いもの）

2 概要

愛知県庁舎は、名古屋城旧三之丸の東に位置し、大津通に面した西を正面に建つ。北隣には昭和 8（1933）年竣工の名古屋市庁舎が並ぶ。当時、「日本趣味を基調とする東洋式」の建築に関する実績をもつ渡辺仁と西村好時らが基本設計を行い、これに基づき内務部営繕課により実施設計され、戸田組が施工を担当した。

愛知県庁舎は、県政執務棟と県会議事堂で構成されている。鉄骨鉄筋コンクリート造、地上 6 階一部 7 階、地下 1 階建、建築面積は 4,665.99㎡で、平面は日の字型で東辺中央に県会議事堂を配置し、西正面中央に車寄玄関、南北面中央に玄関を設けている。

県政執務棟は、1 階を石張り、2 階から 5 階を黄褐色テラコッタ張り、6 階と 7 階を白色磁器モザイクタイル張りとした 3 段構成の外観となっている。正面中央部の壁面を少し前に出し、凹凸を抑えた単純な箱型の形態に、名古屋城大天守から意匠を引用した破風付の入母屋造を多用する屋上階と、前面車寄まわりに本瓦型銅板葺の勾配屋根を置き、陸屋根のパラペットに瓦葺屋根を形作って日本趣味を見せている。

県会議事堂は地階を石張り、1 階から 3 階を黄褐色テラコッタ張りとし、東西棟の切妻屋根を架けて、南東隅には煙突を立てている。議場は 2 階にあり、2・3 階部分を吹抜けとし、3 階に傍聴席を設けている。議員、記者と傍聴者の動線を明確に区分することで、それぞれ階や区域の独立性を確保している。

南北の自動車庫は、桁行 56m ほどの鉄筋コンクリート造の平屋建で、東端の一室を乗務員の控室としている。また、南自動車庫の一部には建設当時のシャッターが残っている。

愛知県庁舎は、昭和前期の庁舎建築のなかで竣工当初からの姿を保ち続け、現在も県庁舎としての機能を果たしており、文化財活用の模範となる一例である。



愛知県庁舎外観（西・北面全景）



南自動車庫外観



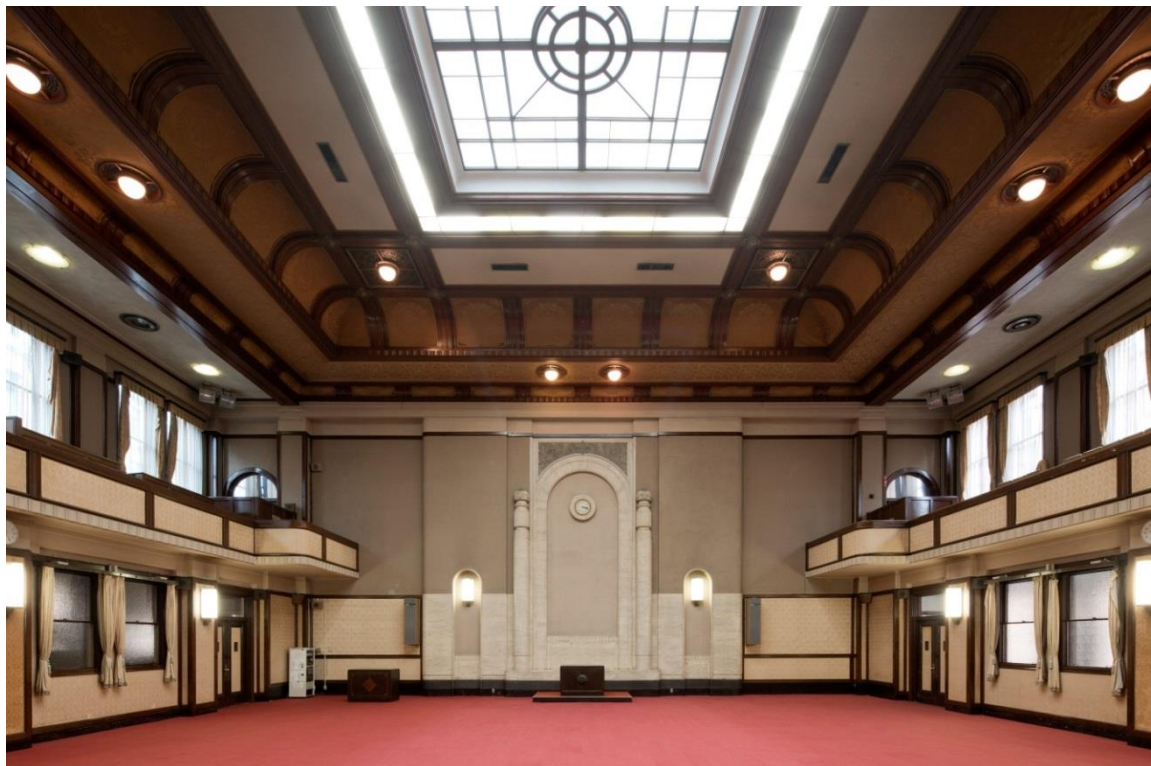
北自動車庫外観



正面玄関



1階正面広間



2・3階旧議場（現、講堂）



5階貴賓室



6階旧正庁（現、災害情報センター）